















農民文學の今後

大田卯

農民文學の今後... 農民文學は、農村生活の反映として、その特色を有するものである。...

活字禪

岡田正三

活字禪... 活字は、文字の形を写し取るものである。...

彫刻の鑑賞

松田尚之

彫刻の鑑賞... 彫刻は、空間を占める立体芸術である。...

藝術を如何に鑑賞するか

藝術を如何に鑑賞するか... 藝術の鑑賞には、その背景や歴史を知る必要がある。...

郷里からの通信

農村に於ける 相勉

郷里からの通信... 農村生活の現状と課題について報告する。...

『人間學』を讀む

大江清志 郎

『人間學』を讀む... 『人間學』は、人間の存在意義を探究する著作である。...

支那史概説を讀む

文學博士岡崎文夫著 小野 勝 年

支那史概説を讀む... 支那の歴史と文化について概説する。...

竹下直元氏の著作

『人間學』を讀む

竹下直元氏の著作... 竹下直元氏の著作について紹介する。...

『野鳥と共に』

中西昭次氏著

『野鳥と共に』... 『野鳥と共に』は、自然と人間の関係を描いた小説である。...

『都市年鑑』

開十一年用

『都市年鑑』... 『都市年鑑』は、都市の発展と変化を記録する年鑑である。...

京都大御用店 丸美屋洋服店 伊東合名会社 試験準備の時期 風流おでん 蛸の家 京大御用店 商店 視力堂 印刷 美術 印刷 印刷

京都新出日新聞 学 感あり 活きた社会 きた社会 認めた批判を持つこと 必要は全更賢 官を要すまい、特に 最近の如く社会の底 層を貫く恩顧の依 頼に向かふ正統に 振るには就中日常 社会現象を如何に 究るの責に供すべき